

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2024年3月29日）

### ■第1刷（2021年10月1日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
目次					
7			本書は第1刷発行時のStataバージョン17.0に基づいて記載していますが、バージョン18.0においてもすべてのコマンドが本書記載の通り動くことを確認済みです（2024年2月 第2刷発行時 追記）。	更新情報を追記いたしました	24/03/29
第4章					
27	上から22～23行目（2つ目の囲みの注釈部分）	どちら側にも差がある（＝良い効果がある場合と悪い効果がある）両方を検定するためです。	どちら側にも差がある（＝良い効果があ <b>る</b> 場合と悪い効果がある）両方を検定するためです。		22/07/29
コラム⑤					
92	中央の囲みの中			下記※1参照	23/01/06
第11章					
122	下から6行目	サンプルデータでは、重複した値は <b>存在しなかった</b> ので、 <b>上の</b> P値を採用し、P値<0.001であり、在院日数はBMIカテゴリ3群間で有意差があると解釈できます。 <b>ちなみに、同一の値があるかどうかを簡単に探すには、以下を入力してみましょう。</b> [duplicates report los] <b>表示される結果の表の左端のcopiesの列に1以外の数字が表示されている場合は、重複した値があることを示していません（図11-16）。</b>	<b>同一の値があるかどうかを簡単に探すには、以下を入力してみましょう。</b> [duplicates report los] <b>表示される結果の表の左端のcopiesの列に1以外の数字が表示されている場合は、重複した値があることを示して</b> ます（図11-16）。 サンプルデータでは、重複した値が <b>存在</b> するため、 <b>下の</b> P値を採用し、P値<0.001であり、在院日数はBMIカテゴリ3群間で有意差があると解釈できます。	「重複した値は存在するため、下のP値を採用し、」への訂正および文章の前半と後半の入れ替え	22/07/29

### 図表

※1 正しくは下記の通りとなります。青丸で囲みました部分が訂正箇所でございます

①  $X = 2$  のときの確率（治療なしで女性 2 人，男性 6 人） $= \frac{{}_{10}C_2 \times {}_{10}C_6}{20C_8} = \frac{45 \times 210}{125,970} = 0.075$

②  $X = 1$  のときの確率（治療なしで女性 1 人，男性 7 人） $= \frac{{}_{10}C_1 \times {}_{10}C_7}{20C_8} = \frac{10 \times 120}{125,970} = 0.0095$

③  $X = 0$  のときの確率（治療なしで女性 0 人，男性 8 人） $= \frac{{}_{10}C_0 \times {}_{10}C_8}{20C_8} = \frac{1 \times 45}{125,970} = 0.00036$